

石畑重松囃子

瑞穂町無形民俗文化財

所在地：瑞穂町石畑



^{じゅうまばやし}重松囃子は、安政年間（1854年頃）、現在の埼玉県所沢市に在住していた^{ふるやじゅうまつ}古谷重松という人が当時流行していた江戸ばやしを基に独自の旋律を考案し創作したものと言われています。重松は当時、農家相手の行商人として、近隣の村々を歩き、農耕技術の普及を図りながら、その技芸を指導したとされています。石畑地区に重松囃子が普及

したのは明治20年前後と考えられます。以後、終戦前後の一時期以外は氏神の春夏秋冬の祭礼に、毎年演じられています。演目は「本囃子」「にんば」「昇殿」「しちよめ」「かまくら」「ねんねこ」などです。